

失語症評価の使い分け | SLTA・WAB・CADL 5分フロー

病期だけで固定せず、「今回の評価で何を知りたいか」から選ぶ

1 | 今回の評価で何を知りたい？

SLTA 言語機能のプロフィール

理解・表出・読み書きなど、
得意／不得意を詳しく整理したい

→ 介入の優先順位や追加評価へ

WAB 重症度・失語型・経時変化

失語指数（AQ）や失語型など、
共通指標で全体像を整理したい

→ 重症度・失語型・変化の比較へ

CADL 実用コミュニケーション

生活でどこまで伝わるか、
代償手段や支援方法を知りたい

→ 環境調整・家族支援へ

2 | 実施前に確認

・覚醒・注意は保たれているか

・疲労が強くないか

・全身状態は安定しているか

・標準化された条件で実施できるか

3 | 標準検査が難しいとき

標準検査が難しいときは無理に完遂しない

観察・評価可能な範囲を記録 → 状態が整ってから目的に合う検査へ

4 | 結果を支援につなげる

① 検査では何ができる／難しいか

② どの条件・手段なら伝わるか

③ 次にどの支援・評価を行うか

迷ったときの一言

SLTA・WAB・CADLは排他的な選択肢ではありません。
SLTAとWABは総合検査として情報が重なる部分があります。
追加する検査で「何の判断が変わるか」を先に確認します。

参考・公式情報

SLTA（日本高次脳機能障害学会） <https://www.higherbrain.or.jp/publication/test/slta/>

WAB失語症検査 日本語版（医学書院） <https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/1390>

CADL（千葉テストセンター） <https://www.chibatc.co.jp/cgi/web/index.cgi?c=catalogue-zoom&pk=40>

※ 検査の実施法・採点基準・利用条件は、各公式マニュアル・販売元の最新情報を確認してください。